





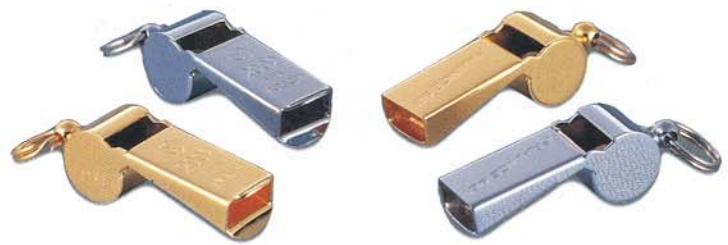
W杯仏大会のイングランド対チュニジア戦で主審をつとめる岡田氏(中央)

©J.LEAGUEPHOTOS



サッカー国際主審 岡田正義氏

1958年東京生まれ。93年国際主審登録、95年(社)日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)入社。98年世界に約千人いる国際主審から選ばれた34人の一人としてW杯仏大会で主審をつとめる。2002年スペシャルレフリー(プロ審判)契約。冷静かつ機敏な判断力と、毅然とした判定で、1,200以上の国際試合やJリーグの試合をさばいている。



W杯用のホイッスル。左が仏大会、右が日韓大会で使用された。銀メッキは固めの音、金メッキはソフトな音が出るという。

さんが新聞の取材を受けたときでしたね。

岡田 そうです。こんなに質の高いホイッスルが日本製で、しかも過去一度のW杯で使われていたと聞いて、とても驚きました。

野田 仏大会では日本代表の初出場を記念して、銅合金を金色と銀色に表面処理したホイッスルを作り、そのセットを岡田さんに持つて行つていただきました。

岡田 各国の審判に配つたら、見た目が美しいので、みんなとても喜んでいましたよ。

野田 安物はニッケルメッキだけで、ウチのは銅、ニッケル、クロムの二層メッキ、さらに十三工程もの鏡面仕上げをしていますからね。

見た目の美しさは、外国製品と比

べると目瞭然です。

岡田 合わせ目に隙間があいていたり、はんだ付けの雑なものが多

いのですが、野田さんのホイッスルは作りもしっかりとっています。

### 主審の意思を伝えるホイッスル

岡田 先日、テレビでバレーボールの試合を観ていたら、野田さんのホイッスルを使っていましたよ。音

は正直ですね、聞けばすぐにわかります。

野田 国際バレーボール連盟の依頼で作ったものです。バレーボールの審判は一試合で何度も力いっぱい吹くので、顎が痛くなるそうです。

岡田 軽く吹いても高い音が出せることは、どんな競技でも審判にとって非常に重要なことです。

野田 ウチのホイッスルは鼻息でもきちんと鳴りますよ(笑)。

岡田 サッカーの主審が試合に走る距離は約十一キロ。もつとも

運動量の多い選手でも約十キロですから、主審は選手よりも走っているわけです。日々トレーニングしているので息が上がることはあります。軽く吹いても良い音が出るホイッスルを持つていれば、安心して試合に集中できます。

野田 岡田さんが一番印象に残っている試合はなんですか。

岡田 W杯仏大会のイングランンド対チュニジア戦です。

野田 あれはサッカー史に残る名勝負でしたね。岡田さんはつねに冷静で的確にジャッジされました。試合後、敗れたチュニジアの選手が岡田さんに握手を求めてきましたが、珍しいことだそうですね。

岡田 ホイッスルは主審の意思を選手に伝えるものです。あの大歓声でも、私の意思がしっかりと伝わったのだと思います。そして、野田さんのホイッスルもあの試合で多くの人が知ったのではないでしょう。



各種ホイッスル。(左から)スコットランドヤード用、アイスホッケー用、ラグビー用